
家電パニック

冠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家電パニック

【Nコード】

N2775M

【作者名】

冠

【あらすじ】

主人公（若葉 千鶴）の家には、家電が擬人化した美男美女がいっぱい！掃除機に洗濯機、目覚まし時計そして辞書（家電じゃないけど気にしないで）そして……。

これは若葉千鶴が送る家電ハーレム！！

夢！ユメ！？ゆめめめめ！！！？？

私の周りにはお花畑が広がっていた。

お花の真上を妖精がパタパタと飛んでいる。

「キヤツホー！ー！！妖精さん待って〜」

私はその妖精を捕まえようと走っている。

捕まえようと思った妖精はいきなりUターンをしたかと思うと私の頭めがけて新幹線のようににはやくこちらにむかってくる。

「えっ！！ちょっと待って！！はっはっはっ！！」

ものすっごい速さでこちらに向かってくるすっごいにこやかな顔で

「怖っ怖っ！！なんか怒ってるの！！ごめんごめん！！」

なにも聞こえてないのかもものすっごい笑顔でこちらに向かってくる

「い、いや、いや、キヤ〜〜〜！！」

「キヤ〜〜〜！！」

「なにがキヤ〜だよ。」

朝っぱらから五月蠅い奴だな。

叫んでる暇があるなら早く起きやがれ学校に遅れるぞ。」

なんだ夢だったんだ・・・よかった・・・かな。

でも、なんであんな夢見たんだろ？

昨日は怖い夢見てないし追いかけられたいとも思っていないのに……

「全然反応が無いまだ寝ぼけてんのか？

もう一回踏み潰してやろうか？」

踏み潰す……いや、まさか……そんな事言っはすが無い……
でも……こいつなら

「おい今さらりと酷い事思わなかったか？」

「全然そんなこと思っていないよ」

「そうか踏み潰したから怒ってるのかと思った。」

「今なんて言ったのかな？」

「怒ってるのかなと思っ」「その前！」「」

「踏み潰しぐはっ」「やっぱお前か！！」「」

やっべついカッとなってラリアットしちゃったテへ

良い子はむかつく奴がいたらやっつてね

コツはとにかく相手の首に腕を力いっばい食い込ませようね。

ホラーは大っ嫌い!?

「お嬢様遅刻なさいますよ、ベルなぜ起こさないのでですか？」

私が勝利のガッツポーズをしていると、長身の執事服を着た美男子が入ってきた

まあパジャマだから見られても恥ずかしくないけど・・・ノックくらしいですよ。

「おはようございます。お嬢様今日は天気が良いですよ
ところでなぜベルが白目むいてるでしょうか？」

「人の体に足に乗せて起こしたからリアットをくらわしたのよセバスチャン。」

「さようですか・・・私は氷華です。」

ごめんねえ〜セバスチャンって言うてみたかったのよ
だって執事服着てる男性よ！これは女性の夢ね

と少女は心の中で謝つといた。(投げやりに)

そつえば自己紹介してなかったわね。

私がリアットくらわしたて白目むいているのがベル
目覚まし時計の擬人化したもの

「ものあつかいかよ!？」

「あ、回復した。」

執事服を着ているのがセバスチャンこと氷華

「セバスチャンではありませんよ。」

「……」「……」（ベルと私の沈黙）

でこの可愛い美少女は、若葉 千鶴（わかば ちづる）

「自分で可愛いって言ったよ。」

「何を言ってるのですか！？お嬢様は可愛くて美しいまるで太陽みたいな美少女じゃないですか！

ベルは目でも腐ってるんじゃないですか？」

「千鶴の事になると急にヒートアップするな。」

「当たり前でしょ！？お嬢様はうんぬんかんぬんピーピー。」

「だー！！！！五月蠅せー！！！！！」

お前らが五月蠅いよ……ハア着替えよう

掃除機と辞書

「言い争わないで朝食の準備しましょ、その間に私は着替えてるから。」

「ベル邪魔です。」「ぐはっ。」

氷華がベルに脳天直撃回し蹴りをくらわして私の前に立った。
ざまあベル自業自得だね。

「ハアハアただいま準備いたします。」

「いつてら〜」

遅刻しないためにとりあえず着替えるか・・・

「ほおピンクのパンツかあ〜。お前らしくないのおおお」

「アイアンクロー」「ぎゃはああ!!--」

ベル沈黙・・・

見られた見られた。こゝこゝ、こんなクズに下、下、下着を見られたあああ!!--

「最低!!--!!!--」

ドカン バタン ブスッ バシャー・・・シーン

「おいおい上でなにやっているんだ氷華?」

「知りません、それよりご飯にしますよ総次。」

「ベルも戻ってきてないが・・・？」

「それこそ知りませんよ！！」

おいこら、教授卵に変なの入れないでください！？」

「変なのじゃないエタノール水溶液だ。」

「ダメに決まってるじゃないですか！！」

「え〜」「氷華の言うとおりだよ。」――（最初教授、後私）

エタノール水溶液を入れようとした人が教授（きょうじゅ）辞書の擬人化、白衣をいつも着ている

総次（そうじ）と呼ばれた人は、掃除機の擬人化、服がダボダボのいつもハタキを持っている

「「おはよう」「「おはよう総、教授。」

「ベルはどうしたよ。」

「死んだわ。」

「「「死んだ！！！！」「「「

それと家の中では走って暴れないでね。」

いきよいよくドアを開けて現れたのは、楓（かえで）女の子の
水色の髪、グリーンアイでやんちゃな携帯の擬人化。

「ちづくみんな起こしてくれないんだよ！」

「起こしただろ！？どんだけなんだよ！？」

野郎共の話をスルーして楓は私に抱きついてきた。

私より胸が大きい・・・うらやましい

Bか・・・いやCはあるな・・・。

「お楽しみのところ悪いが遅刻だ。」

「ベル復活したのか・・・」「いやいや今なんて？」「飯！」

「だから遅刻だ学校。」

「・・・」「・・・」「いただきます」

夏休みの前日の終了式って異常にダルい(後書き)

感想などがあれば嬉しいです。
そしてやる気もです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2775m/>

家電パニック

2010年10月14日13時09分発行